

gibber gibber (Bates, 1873) の摩耶山における記録は案外少なく、特に近年の記録がないようなので、筆者の採集例を報告しておく。

1 ♀ 20. VII. 1981 筆者採集・保管

ロープウェイ駅からやや離れた山頂付近の登山道沿いでピーティングによって得た。山頂付近ではコブヤハズ好みそうな状態の朽木はほとんど見つからず、また、この日は小雨が降っていたので、ピーティングを主に行っていたところ、地上約 1 m の高さにおら下がっていた枯葉つきの枯枝から上記の 1 ♀ を採集することができた。

ヒゴヒラタエンマムシ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・111)

高 橋 寿 郎

ヒゴヒラタエンマムシ (*Hololepta higoniae*) は種名のごとく Higo (肥後) 産で Lewis 氏が記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 6, XV, P. 174, 1874) (同じく Lewis 氏が Higo, Konose, Yuyama 産で *H. parallela* として記載された種— I. C., 5, XIII, 1884, P. 182—も本種のシノニムである)。平べったい黒色の光沢あるきれいな種であり (体長 8 mm), 分布も日本 (本州, 九州) 以外台湾, 印度支那と広いようであるが兵庫県下では今迄全く記録が見当らなかった種である。1982年6月7日神戸市内の烏原でアカメヤナギの樹 (岡村はた博士に同定して頂いた) にピッタリとくっついているのを採集した。樹皮下性と言うことであるからもっと注意すれば案外いるのかもしれないが県下からは初めての記録と思われるので此処に報告しておきたい。このヒラタエンマムシ属 (*Hololepta*) には日本で3種知られていて兵庫県下にも3種とも記録されるのだがいずれも記録が大変少い。どれも見つけることが楽でない種のようなのである。参考までに他の2種の記録を紹介しておく。

○ オオヒラタエンマムシ (*Hololepta amurensis* Reitter, 1879). 種名のごとく Amurland 産で記載された種 (Deutsche Ent. Zeitschr. XXIII, 1879, P. 213). 日本からは Lewis 氏が "Junsai lake" (北海道) から記録された (1884)。県下からは氷上郡 [山本, 1958], 美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972] の記録があるだけの種。

○ ヒラタエンマムシ (*Hololepta depressa* Lewis, 1884). この種は Lewis 氏によって "Kumagawa in Higo, Ishikari river in Yezo" と九州, 北海道産で記載された種である (1884)。県下では筆者が多可郡鳥羽で採集した (1 ex., 5-VII-1975) だけで他に県下の記録を知らない。

以上いづれにしても 3 種共調査が不十分なエンマムシたちである。

尚兵庫県には上記ヒラタエンマムシ属をもふくみエンマムシ科のものは 33 種が分布していることがわかっている。これ等に就いてはいづれ機会を見て報告したいと考えている。

カツラネクイハムシ神戸市北区芦谷溪谷に産す (兵庫県甲虫相資料・121)

高 橋 寿 郎

カツラネクイハムシ (*Donacia katsurai* Kimoto, 1981) は桂孝次郎氏が芦屋市の奥池で採集されたもの並びに春沢圭太郎氏が全じく芦屋市奥山町イモリ谷にて採集されたものに基づいて木元新作博士が記載された種である (Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., No 34, P. 24, Fig. 2, 1981)。その後 "野尻湖昆虫グループ" の皆さん方の精力的なネクイハムシ類の分布調査の結果このカツラネクイハムシが兵庫県小野市, 岡山県阿哲郡哲西町の 2ヶ所にも産することが報告された (I. C., P. 30, 1981)。

筆者は 1982年 6月 5日神戸大学の奥谷禎一博士の御世話で神戸市が "ゴミ捨て場" として計画している北区の芦谷溪谷を頌栄短大福岡誠行教授の案内で調査する機会を得た。この溪谷の中に可成りの湿地帯があり, そこでこのカツラネクイハムシを 8♂♂, 2♀♀採集することが出来た。既に芦屋市と小野市での記録があるのでその中間に位置するこの地に分布していることは別にどうということはないと思われるがこの湿地が近々無くなる地点でもあり, また余り産地の知られていない種だけに記録として報告しておきたい。6月 11日には蜂谷幸雄氏に御無理を御願ひして再度同地へ調査におもむき可成り注意深く 2人で調べたが 2♂♂しか採集出来ず, しかもいづれも限られた地点のみにしか見出されなかった。食草ははっきりとはしなかったが生えていたシラスゲに止っていた (植物の同定は岡村はた博士にして頂いた同博士に厚く御礼申しあげる)。時期的に成虫の出現がもう少々早いのかとも思う。相当付近を広範囲に調べても見つからなかったがどの様な生活をしているのかが全く見当がつかなかったことは残念である。早い時期にもっと詳しく調べれば或は更に多くいるのではな